

2011. 7. 9

☆スペイン・ハヅル *Olé*

メキシコ・中南米の夜

峰 万里恵 (うた)

高場 将美 (ギター)

«I»

1. 20年 *Veinte años*

作詞：ギジェルミーナ・アランブール *Guillermina Aramburu*

作曲：マリーア・テレサ・ベラ *María Teresa Vera*

◆キューバの《トローバ》は、ロマンティックな詩をギターを弾きながらうたう、19世紀からある民衆音楽のジャンルです。昔の南ヨーロッパの吟遊詩人の流れともいえます。アーティストはほとんど男性ですが、女性のマリーア・テレサ・ベラは、男女含めてこのジャンルの代表者のひとりで、貴重な個性の持ちぬしです。

この曲は《アバネーラ》（ハバネラ）という形式（リズム）で、1935年に発表されました。作詞したのは、マリーア・テレサさんの子ども時代からの親友である女性で、上流階級の芸術愛好家の美男子と結婚して幸せでしたが、20年後に彼の浮気で離婚しました。その心境を詩に書いて、マリーア・テレサにうたってもらったのです。家名に傷がつくので、作者として名前を出すことを固く禁じていました。そのため、この曲はごく近年まで、マリーア・テレサさんの作詞と思われてきました。

わたしがあなたを愛しているかどうか、あなたにはどうでもいいことでしょう。もうあなたはわたしを愛していないのだから。もう過ぎてしまった愛は 思い出してはいけない。

わたしは あなたの人生の夢だった、もう遠くなったある日のこと。きょう わたしは過ぎ去ったものの代表。わたしは それではないやだ。

もし人が 愛しているさまざまのものごとに 手がとどくものなら、あなたは同じようにわたしを愛しているだろう、20年前と同じに。

どれほどの悲しみをもって わたしたちは見ていることか、わたしたちから去っていく愛を。それは魂のひとかけら。憐れみなく奪い取られていくもの。

2. 貧しい人たちのサンビータ *Zambita de los pobres*

作詞作曲：アタウワルパ・ユパンキ *Atahualpa Yupanqui*

◆サンビータは、アルゼンチンのフォルクローレでいちばん愛されているダンス・歌曲の形式《サンバ》の、親しみのこもった呼び名です。

作者は、ギタリスト・歌手・作家でもあり、母国アルゼンチンのみならず南アメリカ大陸の民衆伝統の最高の表現者のひとりです。この曲は、若いころつくったもので、彼が長く住んだトゥクマン州の高原の村が背景になっています。

日曜日が来ると 村までわたしは下りてゆく。すると取り残されたわたしの小屋は まるで言っているようだ、「なんてひとりぼっちのわたし！」

アルガローボの木の下で サンビータがひとつ うたっているのが わたしには聞こえる。そしてギターのかき鳴らしはまるで わたしに言っているようだ、「おいで、踊れ！」

山の愛らしいひと、わたしの心やさしい土地っ子女性は どこを

歩いているのだろうか？ きょうわたしは おまえにうたう、おまえの日曜日のサンバを。わたしの小さな鳩よ！

霧のポンチョをまとって おまえは行った、街への道を。わたしのサンバはおまえを待っている、きれいな土地っ子女性。

*アルガローボは、アルゼンチン北西部でもっとも愛されている木で、豆から酒やお菓子が作られ、茂った木陰は照りつける太陽からの逃げ場になります。材木も利用できます。

3. サラビーナ *Salavina*

作詞作曲：マリオ・アルネード・ガジヨ *Mario Arnedo Gallo*

◆作者はアルゼンチン北西部サンティアゴ州出身の歌手でギタリスト。首都ブエノスアイレスで、1930年代から故郷のフォルクローレをうたいつづけ、巨匠と尊敬されていました。サラビーナは、サンティアゴ州のなかでも、へき地で、それだけに独自の伝統が守られ、数々のすばらしい土の音楽家たちが生まれています。亜熱帯気候です。

夜の中に立ち上がる歌声のように 行っては帰ってくる数々の追想、コオロギたちのランプに火をともしながら、孤独の山のそばに。

そして月は川の背に乗って、水の泡と遊びはじめる。古いビダラ（民謡の一種）の歌詞が 岸でうたっているのが聞こえる。

太陽が その魔法で、サボテンに黄金の花を咲かせて、沈んでゆく。そのときクレスピン（つぐみの1種）が 静けさを破っていく、塩のながい小道の上を。

遠い星たちと声たち。夜のなかの希望、その愛。——そして 愛する人がいないことが 悩みたちをよみがえらせる。その悩みたちが 老いた歌い手をとらえる。

サラビーナ アイ サラビーナ！
ふたたびおまえに会いたい！

そうすれば わたしは子どもに帰れる。あっちの水たまりで、うれしそうに足を濡らしていた子どもに。

4. インディア India

作詞：マヌエール・オルティース・グレーロ Manuel Ortiz Guerrero

作曲：ホセ・アスンシオン・フローレス José Asunción Flores

◆パラグアイの国民歌曲《グワラニア *guarana*》の代表的な曲です。これは、同国でもっとも愛されている舞曲リズム、ポルカ（ヨーロッパのポルカとはまったく別の音楽です）を、ゆっくりしたテンポで、歌にふさわしくしたものです。1925年にこの名前を提唱した作曲家アスンシオン・フローレスは、28年にロマン派の詩人オルティース・グレーロと知り合って、美しく格調高い名曲を生みました。

インディア、女神と牝豹の美しい混合。グワイラに住む はだかの乙女。野育ちの物語り歌が、彼女の腰の曲線をかたちづくった、青いパラナー河の とある曲がり角を模して。

彼女の部族の花、山に住むグアヤカー族。グワラニーのエデンの園の、野育ちの愛のイヴ。

彼女のこめかみに勇み立つのは、

羽毛となった彼女の誇り。彼女のことばは、野生のエイルスー（ミツバチの1種）の巣。

虎と豹の牙の首飾りが、ウヴトゥルスー（山脈）のミュージズを飾る宝石となる。

野生のおんな。森林が彼女の家庭。彼女もまた愛することを知っている、彼女もまた夢見ることを知っている。

5. あなたが わたしといっしょに 生きるなら

Quando vivas conmigo

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス José Alfredo Jiménez

◆メキシコの農牧地帯の人々の心・感情をうたう歌謡曲のジャンルを《カンシオン・ランチェーラ *Canción ranchera*》、略してランチェーラと呼んでいます。1930年代からメキシコ・ポピュラー音楽の主流になりました。

ホセ・アルフレード・ヒメーネスは、自分の波乱に飛んだ愛の人生をそのまま歌にすることで、1950年代の初めからランチェーラに、豊かな深い人間性をもたらしました。

わたしの両目からは涙がわき出ている。わたしの年令で わたしは恋をしている。髪の毛は完全に白くなっている。でもわたしは取り出そう、わたしの過去から 若さを。

そしてあなたに 愛することを教えよう。なぜなら あなたはこれまで 愛したことがないから。

あなたは もう気がついているだろう、どれほどのことが学べるか、わたしといっしょに生きたら。

わたしの唇からは血がわき出ている。わたしの敗北は埋葬してしまった。きょうわたしは 自分をあなたの両腕にゆだねる、ほかのだれでもなく。なぜならわたしは知っているから——わたしの愛は あなたの愛がなかったら なんの価値もないことを。

そしてわたしは あなたに愛することを教えよう。なぜなら あなたはこれまで 愛したことがないから。あなたは もう気がついているだろう——どれほどのことが学べるか、あなたが わたしといっしょに生きたら。

6. 最後に飲み干して *En el último trago*

作詞作曲：ホセ・アルフレード・ヒメーネス *José Alfredo Jiménez*

わたしの唇からは血がわき出ている。わたしの敗北は埋葬してしまった。きょうわたしは 自分をあなたの両腕にゆだねる、ほかのだれでもなく。なぜならわたしは知っているから——わたしの愛は あなたの愛がなかったら なんの価値もないことを。

そしてわたしは あなたに愛することを教えよう。なぜなら あなたはこれまで 愛したことがないから。あなたは もう気がついているだろう——どれほどのことが学べるか、あなたが わたしといっしょに生きたら。

7. じぶんの土地へのセレナータ *Serenata para la tierra de uno*

作詞作曲：マリーア・エレナ・ワルシュ *María Elena Walsh*

◆作者（右写真）は 20代の初めに、ギターを弾きながらアルゼンチンのフォルクローレをうたう女性デュエット《レダとマリーア *Leda y María*》で、ヨーロッパ各地をめぐる。帰国後、子どものためのミュージカル・コメディの執筆・作詞作曲で人気をよび、TVシリーズの大成功で、広く愛され、親しまれてきました。60年代後半から、社会性をもったフォルクローレ歌曲をつくるようになりました。78年からは、執筆と文化振興の活動に専念し、2011年1月に80才でこの世を去りました。この曲は、1971年発表です。



わたしは ここに残っていれば
痛いから、でもこの土地から去っ
て行けば 死んでしまうから、こ
んなすべてのことゆえに——こん
なすべてのことがあっても——わ
たしの愛よ、わたしはおまえのな
かに生きたい。

ビダーラの歌のような おまえ
の節度の正しさゆえに、太陽のよ
うな おまえの常識を破る行動ゆ
えに、ジャスミンのあるおまえの
夏ゆえに、わたしの愛よ、わたし
はおまえのなかに生きたい。

なぜなら子どものころのことば
は わたしたちふたりのあいだの

ひとつの秘密だから。なぜならお
まえは わたしの心が根を抜かれ
たときに守ってくれたから。

おまえの昔ながらの反抗精神ゆ
えに、そしておまえの痛みの年令
ゆえに、おまえの終わることない
希望ゆえに、わたしの愛よ わた
しはおまえのなかに生きたい。

おまえにギターの種をまくため
に、花のひとつずつにおまえの世
話をするために、そしておまえを
痛めつけるものを憎むため、わた
しの愛する土地よ、わたしはおま
えのなかに生きたい。

《II》

1. ノ・ボルベレー (わたしは帰ってこない) *No volveré*

作詞：エルネスト・コルターサル *Ernesto Cortázar*

作曲：マヌエル・エスペローン *Manuel Esperón*

◆作曲者のマエストロ・エスペローン (下写真) は、1930年代後半から、映画音楽の作曲・オーケストラ編曲指揮の専門家になり、約400本の映画を手がけ、900曲ほどの、主に《ランチェーラ》ジャンルの曲を書いた、巨大な音楽家です。引退してからもずっと自宅ピアノを弾きつづけ、2011年2月に、99才をすぎてこの世を去られました。

この曲は、1956年の映画で、歌手で映画スターのペドロ・インファンテがうたいました。作詞者は、映画の脚本も書き、マエストロの良きコンビでしたが、若くして自動車事故で亡くなってしまいました。



あなたが わたしから遠くにいる
とき、あなたといっしょに わたしが
いてほしくなったとき、あなたには
わたしの思い出がひとつもないだろ
う。そして あなたはもう わたしと
愛し合うことができないだろう。

わたしはあなたに誓う、もう帰ってこない。たとえわたしの人生が粉々に砕けても、いちどわたしが狂おしくあなたを愛したとしても、もうあなたはわたしの魂から別れを告げられた。

わたしはもう止まらないだろう、わたしの涙が忘却のあふれだす小川になるのを見るまで。そこにわたしはあなたの思い出を溺れさせよう。

わたしたちは風が引き離れた雲だった。わたしたちはいつもぶつかりあう石だった。太陽がすっか

り乾かした 水のしずく。終わりのなかつた酔い。

愛するもののいない列車に乗ってわたしは行く。わたしの切符には帰りが無い。あなたのもっているわたしのものはあなたにあげる。でもあなたのキスはあなたに返さない。

わたしはもう帰ってこない。わたしを見ている神様にかけてあなたに誓う。怒りで泣きながらわたしはあなたに言う

「わたしはもう帰ってこない」

2. 人生にありがとう *Gracias a la vida*

作詞作曲：ピオレータ・パーラ *Violeta Parra*

◆作者はチリの女性で、民衆詩人、作詞作曲家・歌手・ギタリスト・フォルクローレ研究者・造形美術家（絵・刺しゅう・陶芸）・民俗芸術運動の指導・普及者で、そのすべてで、彼女にしかできない高い境地に達していました。

この曲をつくって録音した数ヶ月後に、心労が重なって、自殺してしまいました。まだ50才でした。

人生のおかげ。人生はこんなにたくさん わたしにくれてきた。

わたしにふたつの明星をくれた。それを開くと わたしは完全に区別できる、白いものから黒いものを、そして高い空の底に 星があふれているのを、そして群衆の中に わたしの愛する人を。

わたしに聞くことをくれた。耳はいっぱいに広がって 夜も昼も聞きとどめておく。——こおろぎたちを、カナリアたちを、ハンマ

一の音、タービン、犬のほえる声、夕立。そしてわたしのほんとうに愛している人の あんなにやさしい声を。

わたしに音と ABCの文字をくれた。それといっしょにくれたことばで わたしは考え、人に告げる。母、友、きょうだい、そして わたしが愛している人の魂の道を照らしている光。

人生のおかげ。人生はこんなに
たくさん わたしにくれてきた。
わたしに、疲れた両足で進んで行
く歩みをくれた。その足でわたし
は歩いた、数々の街を、沼地を、
浜辺を、荒れ野を、山々と平原を、
そしてあなたの家、あなたの通り、
あなたの中庭を。

わたしに心臓をくれた。それは
鼓動を早める、わたしが人間の頭
脳の成果を見るとき、良いものが
悪いものから こんなに遠くにい
るのを見るとき、あなたの澄んだ
両目の底を見るとき。

人生のおかげ。人生はこんなに
たくさん わたしにくれてきた。
わたしに笑いをくれた、涙をくれ
た。そうやってわたしは 失意か
ら幸せを区別する。そのふたつは
わたしの歌声を 作る材料。

そして あなたたちの歌声を—
—それは同じ歌声。

そしてみんなの歌声を—それは
は私自身の歌声。

人生のおかげ。人生はこんなに
たくさん わたしにくれてきた。

*スペイン語 *vida* は「人生」「命」
「生活」「生きていること」「生きて
きたこと」のすべての意味を含みます。

3. このおかしな人生 *Estranha forma de vida*

作詞：アマーリア・ロドリゲシュ *Amália Rodrigues*

曲：アルフレード・マルスナイロ *Alfredo Marceneiro* “*Fado bailado*”

◆ファドの伝統では、歌詞が先につくられ、メロディは既存のものを流用します。この曲は、ファドの枠を超えた、ポルトガル（たぶん世界でも）最高の女性歌手アマーリアさんが、若いころにつくったもので、自作の歌詞に、先輩で、ファド男性歌手の最高峰であるマルスナイロ作のメロディ『ファド・バイラード』を当てはめました。そのさい、より率直に、力強く直しています。

神様の意思だった—わたしが、
このように思いまどいながら生き
ているのは。そして、すべての
「アイ！」はわたしのもの、わた
しのサウダードも。—神様の意
思だった。

なんという変わった生きかたを、
このわたしの心はもっているのだ
ろう。なくしてしまった命で生き

ている、だれか運命を変える魔法
の杖をあげればいいのに—なん
という変わった生きかた！

ひとり立ちしている心、わたし
の命令をきかない心。おまえは人々
のなかで道をなくして生きている、
かたくなに、血を流しながら—
ひとり立ちしている心。

わたしはこれ以上おまえについていかない。生まれ、鼓動をやめなさい。どこへ行くのか知らないくせに、なぜ走りつづけることに、こだわるのだ？——わたしはもう、

おまえといっしょには行かない。

* サウダード *saudade* は、失ったものや人、ここにはないものや人を、懐かしく思い出す、悲しい愛の気持ちです。

4. ちっちゃなマウムケール *Malmequer pequenino*

伝承曲 編：アマーリア・ロドリゲシュ *Amália Rodrigues*

◆マウムケールは、小さな野の花で、英語のマーガレット（ひなぎく）の仲間です。この曲は、ポルトガルでいちばん有名な民謡グループに属し、4行詩の歌詞が数百伝わっています。アマーリアさんは、その中から気に入ったのを選び、部分的によりよく直して（時には別の歌詞と差し替えて）うたっていたようです。メロディは、伝統的な即興詩ファド用のものを、アマーリア流の節回しにしています。

ちっちゃなマウムケールがある日 きれいなバラに言いました。「あなたが女王様にしてもらったからといって そんなに いばっていることはないでしょ」

風が揺らすポピーたち、あなたたちを見ていると飽きない。そこには いちばん美しいものがある。自分では知らずに、素朴でいるということ。

あなたを愛したゆえに わたしは神様をなくした。あなたの愛ゆえに じぶんをなくした。いまはひとりぼっちのわたし。神様もなく、愛もなく、あなたもなく。

あの女は 罪をおかした。愛ゆえにファディシュタになった。フ

アドが あんまり遠くまで 彼女を連れて行ったので、神様も彼女を見失ってしまった。



* ファディシュタ *fadista* は、今日ではファド専門歌手を指しますが、昔は一般社会に入れないうるざな男女を意味していました。

また「ファド」は音楽のジャンルを指すほかに、古い文語で「運命、宿命」の意味があります。ファドの歌詞では両方の意味をあわせて使われることが多いです。

5. 黒い舟 (暗いはしけ) *Barco negro*

作詞：ダヴィッド・モウラオン＝フェレイラ *David Mourão-Ferreira*

作曲：カコ・ヴェーリョ／ピラチーニ *Caco Velho / Piratini*

◆リスボンを舞台にした1955年のフランス映画『過去を持つ愛情(原題：タイジュ川の愛人たち)』(監督：アンリ・ヴェルヌイユ、出演：フランソワーズ・アルヌール、ダニエル・ジェラン、トレヴァ・ハワード)で、アマーリアさんがうたった曲です。原曲は『黒い母 *Mãe preta*』というブラジルの曲で、主人の白い子どもを育てる黒人奴隷の老女をうたっています。映画のために、ポルトガル現代文学者・詩人でアマーリアさんの崇拝者だったモウラオン＝フェレイラが、まったく新しい歌詞を書き下ろしました。

朝、どんなに不安だったことか、あなたにわたしが、みにくく見えたらと！ わたしはふるえながら目を覚ました、砂の上に身を横たえて……。

でも、すぐにあなたの目は、そうではないと言った。そして太陽が射しこんだ、わたしの心のなかに。

わたしは見た、その後、岩ひとつ、十字架ひとつ。そしてあなたの黒い舟は、光のなかで踊っていた……わたしは見た、振られているあなたの腕、もう綱を切り離れた帆のあいだで……

浜の老女たちは言う、あなたは

もう帰ってこない。彼女たちは頭がおかしいんだ！ 頭がおかしいんだ！

わたしは知っている、こいびとよ、あなたはまだ出航もしなかったことを。だって、すべてが、わたしのまわりで、あなたはいつもわたしといっしょにいると 言っている。

窓ガラスに砂をぶつける風のなかに、うたっている水のなかに、消えかかった火のなかに、寝台のぬくもりのなかに、からっぽのベンチの上に、わたしの胸のなかに、あなたはいつも、わたしといっしょにいる。

6. 人生は風車 *O mundo é um moínho*

作詞作曲：カルトーラ *Cartola*

◆なんとなく日本語として美しいので「風車」となっていますが、原語は「粉挽き機」を指すことばで、水車でも風車でもいいのです。この曲の場合、作者の生活環境から考えて「人生はコーヒー・ミル」とするのが正しいと思われる。この種のサンバ作者は、実際に見たことのないものを歌詞にすることはありえません。この曲は、リオの黒いサンバ歌曲の最高峰のひとりカルトーラが、転落の人生を歩もうとしていた義理の娘のためにつくったらしいです。

まだ早い——愛するひと——あなたは人生を知りはじめたばかりなのに、もう出発の時間を告げている。あなたがとるだろう方角すらも知らないで。

注意ぶかく耳をかたむけなさい——いとしいひと——わたしはあなたが心を決めたのを知ってはいるけれど……街角ひとつごとにあなたの人生が少しずつ落ちてゆく。ほんの少しのあいだにあなたはなにもないあなただけになってしまう。

よくお聞きなさい——愛するひと——注意ぶかく耳をかたむけなさい、人生はコーヒー・ミル。あなたの夢たちをほんとに細かく砕いてしまう。夢たちをただの粉にしてしまう。

注意ぶかく耳をかたむけなさい——いとしいひと——愛のひとつずつからあなたが受け継ぐものはただ冷たいあざけりだけ。

そのときあなたは深い崖の淵にいて気がつくだろう。あなたが掘った深淵、あなたの両足で。

7. あなたゆえに *Por causa de você*

作詞：ドローリス・ドウラン *Dolores Duran*

作曲：アントーニオ・カルロス・ジョビン *Antônio Carlos Jobim*

◆ブラジル音楽史上最高・最大のクリエイター、ジョビンの作曲したサンバです。作詞したドローリスは、ポピュラー女性歌手で、サンバ以外のジャンルのほうがレパートリーには多く、スペイン語や英語ほかでも、うたいました。とても若くて、病気で亡くなってしまいました。

ああ あなたの目に見えるのは、ただ わたしがどのようになっただけ、そして すべてがどうなってしまったかということ。

こんなに大きな悲しみ——あなたがさわった いちばん単純なものたちにまでも。

わたしたちの家は——愛するひと——もう慣れていて、あなたを待ち受けていることに。

庭の花たちは ほほえんでいた、うたっていた、あなたのゆえに。

さあ わたしのいい人 もう決して——お願いだから——わたしたちを置いていかないで。わたしたちは人生と夢。わたしたちは愛そのもの。

入りなさい——いい人——お願い、悪い世界に ふたたびあなたを連れて行かせないで。

ただわたしを抱いてください。話してはいけない、思い出してはいけない、泣いてはいけない、わたしのいい人。

選曲・構成：峰 万里恵

プログラム作成：高場 将美



ワールド・ミュージックの館 ～峰万里恵と仲間たち～
第2回 女性たちのつくったうた

峰 万里恵(うた) 齋藤 徹(コントラバス)
喜多 直毅(ヴァイオリン) 高場 将美(ギター、話し)

● うたをつくった女性たち：アマーリア・メンドーサ（メキシコ）／アマーリア・ロドリゲス（ポルトガル）／イヴォーニ・ララ（ブラジル）／エレーヌ・メルシュテイン（フランス、ロマ）／チャブーカ・グランダ（ペルー）／ピオレータ・パーラ（チリ）／マリーア・エレナ・ワルシュ（アルゼンチン）ほか

9月10日（土） 19時開演(18:30開場)

cafe&space **ポレポレ坐**

(JR、都営大江戸線「東中野」駅下車 至近)

予約 **3000円** (1ドリンク付き。当日は 3500円)

●ご予約はポレポレタイムス社まで

Tel: 03-3227-1405 / Email: event@polepoletimes.jp